



THE ROTARY CLUB OF PORT NAGOYA

Weekly Report

名古屋みなと

2024~2025

承認 1966年 5月12日 例会日 金曜日 12:30
例会場 名古屋マリオットアソシアホテル
事務局 TEL 052-221-7020 FAX 052-221-7023
E-Mail office@portnagoya-rc.com
URL http://www.portnagoya-rc.com
会長 棚橋 顯 幹事 中井 規博
広報・雑誌・会報委員長 芹澤 謙一

THE MAGIC OF ROTARY ロータリーのマジック R.I. 会長 ステファニー A. アーチック



第2713回例会 No.5

2024年(令和6年)8月23日(金) 晴
「それでこそロータリー」

出席報告

会員 61名中 45名 出席率 72.58%

○スピーカー

シンガーソングライター 山名 敏晴様

会長挨拶

会長 棚橋 顯さん



本日は挨拶に代えて、8月10日(土)に名古屋掖済会病院で開催された「ドクターカー・ラピッドカーお披露目式」の報告をいたします。

中日新聞の記事を読まれた方もいるかと思いますが、私と室原エレクトと中井幹事の3名が招待されて出席してまいりました。高村会長年度に車両購入を目的として実施されたクラウドファンディングにおいて支援をさせていただきましたが、コロナ禍における社会情勢や半導体不足、車両の入手困難といった課題を乗り越え、ラピッドカーは2023年12月、ドクターカーは2024年7月に納車されました。ラピッドカーは納車翌月の2024年元旦に発生した能登半島地震において医療支援のために北川院長と共に出勤したことは皆様もご存知かと思えます。

ドクターカー・ラピッドカーともに外装デザインは動脈と静脈をイメージし、流れるようなスピード感も表現しています。そして車両ナンバー「443」にもこだわりがあります。北川院長のお名前「喜己(よしみ)」なんだそうです。車両搭載機器については、10月5日(土)に開催されるエキサイ祭りにおいて、みなとロータリークラブ会員限定の見学会を行って説明をしていただきますので、当日実施する本年度の社会奉仕事業(災害時緊急対応体験)と合わせて是非ご参加ください。詳細については後日、松本社会奉仕委員長から告知いたします。

日本海員掖済会会長、名古屋市消防局救急部救急

部長、名古屋医師会会長というお歴々に続いて述べた祝辞の内容も Weekly に掲載いたしますのでご覧ください。



ドクターカー・ラピッドカーお披露目式での祝辞

名古屋みなとロータリークラブ 2024-25 年度会長の棚橋顯です。本日はドクターカーとラピッドカーのお披露目式にご招待いただき誠にありがとうございます。そしてこの二台体制での運用開始を心より喜び申し上げます。

名古屋掖済会病院と名古屋みなとロータリークラブとのお付き合いは、初代院長の太田元次さんが当クラブ会員として活躍されていた頃に始まり、しばらく間をおいてから加藤林也さん、河野弘前院長、北川喜己現院長と三代続けて院長に入会していただいております。昨年度からは“断らない救急”を掲げて初期診療を行う病院の姿勢、ER の仕事を“究極の社会奉仕”と捉えて日々全力を尽くす医師の方たちの想いに共鳴し、エキサイ祭りでのブラックジャック体験、クラウドファンディング、映画「その鼓動に耳をあてよ」の上映などで微力ながら協力をさせていただ

ております。

その一方クラブ会員の最年長者 91 歳、最年少者 45 歳、平均年齢 65.67 歳（ちょうど同い年生まれの北川院長と私が平均年齢）という敬老パス世代中心のメンバー構成ですので、各会員が日々の健康管理で大変お世話になっております。

そんな私たちの日常が突発的な事故や自然災害、急な病気の発症などで非日常に変わってしまった時に、このドクターカーとラピッドカーが威力を発揮することになると思います。どうぞこれからもたくさんの方の命を救ってください。名古屋掖済会病院の職員の皆様とこの二台の車両の益々のご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

委員会報告

会員満足度アンケート実施についての説明

クラブ戦略委員会委員長 寺本善雄さん



今年度クラブ戦略委員会ではクラブをより良くしていくためのビジョンの策定と提言をしております。それにあたりまして会員の皆様の御意見を聞くことが重要だという事になり、アンケートを実施することにいたしました。

R I のアンケートサンプルをベースにみなとロータリークラブの内容を付け加えたアンケートとなっております。基本的にはメールでご回答いただきますが FAX など紙でもご回答頂けます。締め切りは 9/3 となっております。アンケートのメールは事務局から配信させていただきますのでよろしくお願いいたします。

クラブ戦略委員会委員 橋本美穂さん



フォームは出欠のアンケートと同じ形になっています。項目が多いのでパソコンを使うとスムーズに回答出来ると思います。必須項目を全部答えると送信できるようになっております。ご不明な点がございましたら直接お問い合わせください。

ニコBOX

(山名敏晴様、本日はよろしくお願いたします。楽しみにしております) 棚橋会長

(山名様ようこそおいでくださいました。ミニライブ楽しみにしております) 中井幹事

(山名様よろしくお願いたします) 田中さん
45 名

本日合計	114,000 円
累計	773,000 円

幹事報告

中井 規博さん

本日の例会は『100 万ドル食事の日』です。1960～1961 年にロータリアンが 50 万人になったのを記念して 1 人 2 ドルずつ食事代を節約して 100 万ドルを寄付したのが起源となります。当クラブでは通常の食事からカレーにすることで 1 人当たり 1,600 円の差額で年間 5 回の 8,000 円となり、クラブとしては年 500,000 円弱をロータリー財団に寄付しております。

配布資料の『国際ロータリー第 2760 地区ポリオ根絶チャリティーゴルフコンペ』についてですが、10/24 三好カントリー倶楽部で開催されます。皆様多数のご参加をよろしくお願いいたします。

【配布物】

- ・家庭集会 B グループ案内書
- ・会員満足度アンケート（一部会員様のみ）3 名
- ・国際ロータリー第 2760 地区 ポリオ根絶チャリティーゴルフコンペのご案内

名古屋みなとロータリーソングを企画した経緯について

芹澤 謙一さん



当クラブのクラブ歌である『セイリング -幸せになるために-』を作成した経緯についてですが、わがみなとロータリークラブも 50 周年を過ぎ、古いクラブはクラブ歌を持っているので、うちのクラブでもぜひ作ろうということで、2019-2020 年度の私が会長の時に山名さんをお願いしてこの素晴らしい歌を作ってもらいました。山名さんは当クラブの田中さんと高校の同級生ということでお願いした次第です。

卓話者紹介

田中 清貴さん



シンガー & ソングライター山名敏晴さんのプロフィールをご紹介します。1951 年、東京生まれ、名古屋育ち。中学の頃より歌を作り始め 1973 年、ポリドールレコードより自作の「忘れな草」でメジャーデビュー。1974 年、自作の「コーラが少し」が高木麻早の歌で 10 万枚のヒット。同年リリースの「旅の終り」が、その後全国ユースホステルの愛唱歌ベスト 1 となり各社競作でレコード化されました。

以後 90 年代までにシングルレコード 4 枚、LP レコード 1 枚、CD シングル 2 枚、カセットアルバム 2 本をリリース。2000 年、ベストアルバム CD「bittersweet」Vol.1 リリース 13 曲収録、2003 年、シングル CD「想い～あの時代を～」リリース、ラジオのパーソナリティとしても 1973 年より FM 愛知、岐阜ラジオ、CBC 等でさまざまな番組を担当されています。

1987 年からは、ライブハウス「パラダイスカフェ」のマネージャーとして、ジャンルをこえて多くのバンド、シンガー、演奏家をプロデュースされています。

1996 年「山名敏晴ヴォーカルスクール」、「yamana

ミュージックオフィス」2004 年「yamana ボーカルスクール」を設立。現在、定期的なライブ・コンサート活動のほかボーカル講師、CD・コンサートプロデューサーとして、また CM ソング、テレビ・ラジオ主題歌、挿入歌、社歌などを制作し現在も活躍中です。

卓話

『セイリング -幸せになるために-』の

楽曲制作について & ミニライブ

シンガーソングライター 山名 敏晴様



県立昭和高校の 1 年生の時、体操部で 5 月に鉄棒から落ちて怪我をして 1 カ月半入院しました。体操はやってはいけないと、ドクターストップがかかり、これからどうしようと思っていた所に、田中君が今度の文化祭でエレキバンドをやるからギターをやらないかと誘ってくれました。田中君はドラムをやり、私もバンドに参加することになりました。昭和高校で初めてのエレキバンドは、全校生徒が集まり満席になりました。私は 1 曲だけ、ギターだけでなく歌わせてもらったのですが、バンドと全校生徒の前で歌ったのが気持ち良くて、どんどん音楽にハマっていきました。田中君が居なかったらここには立っていない、田中君は恩人の一人であります。

『セイリング -幸せになるために-』は、今までコロナでお披露目する機会がなく、やっと今日生で披露します。皆さんにも一緒に歌って頂きます。この曲を作る時、歌詞を芹澤さんに見ていただいた時に『理想』という言葉を入れてほしいと言われました。『理想』という言葉を入れることはあまりないので、どうやったら上手く入るかを考えに考え抜いて抜いて、出来上がった歌詞を芹澤さんにお渡ししたら「まあいいだろう」という事で完成しました。どのように理想という言葉を使っているかを改めて見て、一緒に歌っていたきたいと思います。

第1回創立60周年記念事業実行委員会議事録

とき 8月23日(金) 13:35~
 ところ 名古屋マリオットアソシアホテル
 51階「マーキュリー」
 出席者 棚橋 室原 寺本 杉江 芹澤 鈴木
 山内 長瀬 橋本(修) 水谷 村田
 沼野 加藤(昌) 橋本(美) 藤掛 15名

1. 会長挨拶(棚橋 顯)
 - ・実際には室原会長年度で挙行することになるが、準備は今年度からスタートする
 - ・全クラブが一致して行うこととなるので、役員各位にはご協力をお願いしたい
2. 会長エレクト挨拶(室原 國彦)
 - ・重要な実行委員長は、寺本さんをお願いする。今年度よりRIの定めた「3ヶ年計画」の初年度にあたり、将来を見据えたクラブ改革の中核を決めていく「クラブ戦略委員長」との兼任をお願いすることとなった。棚橋年度から始まるクラブ改革が3年目で形となるためにも、2年目で行う周年記念事業は「オールみなと」で成功させたい
 - ・ついては、当実行委員の人選もそこを見据えて、室原年度の主要役員に加わっていただいているので、よろしく願います
3. 創立60周年記念事業 スケジュールについて(寺本 善雄)
 - ・まず実行委員会の役員構成をご覧いただき、それぞれ担当分野別に「部会」構成で準備を進めていく。アドバイザーにご意見を仰ぎ、各副委員長の下でこれから具体的に作業分担を決めていく中で部会の担当を決め、どんどんここにメンバーが増えていくことを想定している
 - ・スケジュールについては別紙に詳細をまとめてあるが、ある程度骨格が決まってくる毎に議論すべきことが見えてくるので、大まかなスケジュールをまず念頭において進めていただきたい
4. 記念式典について(山内 靖雄)
 - ・各位の関心の高い「アトラクション」の内容について現在検討を進めている

[案] ◇藤野地区補助金委員長が、こうしたお手配をお仕事にされているので打診してみたところ、「サーカス」「渡辺真知子」「庄野真代」等の名が例として挙がっている

 - ◇知人にプロダクションの関係者がおり、概算予算をお伝えしその範囲内でどういったタレントが呼べるかをこれから打診してみる
 - ◇芸能人を呼ぶ場合は、コストと確実性の意味でコネクションを使って呼ぶ方が肝要
 - ◇講演などの形式だとなかなか長時間は難しいので、歌や音楽のある方が参加者を惹きつけやすい
 - ◇仮に歌手を呼ぶとなると、バックバンドなどで相応の予算を取られることから、カラオケなどの対応でできる方を考慮した方がいい
 - ◇条件として現在概算している300万円の予

算を少し上げることも、議論の進行次第では考慮に入れてもよい

◇近時の披露宴のように、式典・祝宴の映像を撮影・編集し、祝宴終了前に会場内でダイジェストとして放映しては？(BGM:セイリング-幸せになるために-)

5. 記念事業について(長瀬 廣幸/藤掛 誠一郎)
 - ・これまでの準備委員会の段階で、「内(港区・中川区)」「外(金沢・能登)」の両面から社会奉仕事業を行えないか考慮していたところ、藤掛前幹事と同期の松井前幹事が次年度実施年度の会長になられるご縁があり、金沢で被災者支援を含めた社会奉仕事業を検討している旨の情報があつた
 - ・来る9月10日に金沢みなとRCを表敬訪問する予定があり、そこで先方と打ち合わせをして、内容を詰めていく予定
 - ・当記念事業は「地区補助金事業」として行う予定(申請可能予定額;\$2,311)のため、その申請スケジュールにあわせて事業を計画していく必要がある
 - ・先方の意向も踏まえつつ、3ヶ年度の会長・幹事と寺本委員長が金沢みなとRCを訪問された際に、コミュニケーションを取りつつ話を進めていく
6. 記念誌について(棚橋 顯/村田 誠一)
 - ・50周年時は映像配付が流行していたのでDVD制作したが、メディアとしても現在では主流ではないため、その際にあわせて作成したリーフレットを作り、保護ケースとしてプラスのケースに封入して配付する方式ではどうか?
 - ・紙の厚さの調整はケースの仕様とに合わせ、内容に関しては50周年時のリーフレットの内容を踏襲しつつ、順次加えたい部分を追加する
7. その他
 - ・50周年時の決算を詳細に作成してあるので、それを搜して参考にするとよい
 - ・60周年の年度では、同好会なども冠に「60周年記念」と銘打って、1年間で盛り上げていく

※次回 第2回 会議予定: 10月25日(金) 13:30~

月	日	今後の例会予定
9	6	港友例会 17F「コスモス」 前年度会計報告
	13	敬老例会 17F「コスモス」
	20	例会変更 夜間例会「八勝館」 Partner's Night
	27	休会
10	4	港友例会 17F「コスモス」 新入会員自己紹介 横山佑希さん
	11	ガバナー補佐訪問 16F「タワーズボールルーム」
	18	休会
	25	ガバナー公式訪問 16F「アイリス」



1 モンゴル米山学友会 創立10周年記念式典開催

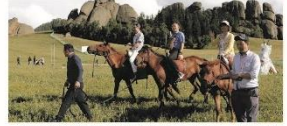
7月20日、モンゴル米山学友会の創立10周年記念式典がウランバートルホテルにて開催されました。会場には、モンゴル出身の米山学友のみならず、韓国米山学友会



会長の朴在泳さん(1995-97/仙台R.C.)など、海外からも米山学友が出席。日本からは、当会の小沢 彦名管理理事長、若林紀男理事長、濱澤功治副理事長、相澤光春副理事長、田中久夫常務理事をはじめ、数十人のロータリー会員が出席しました。来賓としてモンゴル国文化大臣、日本国の井川原 寛駐モンゴル特命全権大使が出席されるなど、会場には総勢140人が集まりました。

当日の式典では、2022年から同学友会会長を務めたセデバザル ウドワルさん(2010-12/ド野上一川R.C.)が退任し、新たにバヤンバット

トウメンズルガルさん(2014-15/大阪東R.C.)が7代目の会長に選任され、その就任式が執り行われました。続く分科会では、3つに分かれ米



山学友や日本のロータリー会員が卓話を披露。その後、最後のプログラムとして、華やかな祝賀会で締めくくりとなりました。
翌日は参加希望者に向けた遊牧民・大草原体験プログラムが開催され、テレンジ国立公園内での乗馬体験や、民族コンサート鑑賞などが開催され、モンゴルの文化を体験しました。
これまでに日本の数多くのクラブと協力し、モンゴル国船舶プロジェクトによる図書室設立や、医療機関への寄付・医療機器寄贈など、多数の奉仕活動を行っている同学友会の今後のさらなる活躍に注目です。



2 2025 学年度奨学生の募集を開始

来年4月採用の新規奨学生募集が始まりました。各地区の米山記念奨学会が選定し、当会選考・学務委員会と常務理事会の承認を経た指定校は、全国で586キャンパス(前年度563キャンパス)。指定校からの被推薦者数は1,909人(前1,789人)で、この中から新規奨学生約700人が選ばれます。今回、初指定校は15校。また、5地区が例年に超える範囲の地区外の大学を指定。大学・大学院以外を対象とする地区

奨励奨学金は、13地区(同14地区)38校(同39校)となりました。当会からは8月6日に、全指定校に宛ててメールで通知しました。各地区米山奨学会委員では毎年、学校説明会や担当者との懇談を行い、事業の目的に合う多様な人材を採用しようと努力しています。指定校からの応募締切は例年通り、10月15日となります。※指定校一覧、募集要項・申込書式は、当会ホームページにて公開しています

3 寄付金速報 — 2024-25 年度の始まりは? —



2024-25年度の最初の月となる7月末までの寄付金は約2億1,300万円でした。前年同期と比べて約31.4%減(普通寄付金:2.9%減、特別寄付

金:58.9%減)、約9,700万円の減額となりました。1億円近くの減額となったのは、前年度の初めに同額の高額寄付をいただいたことが影響しています。
ご寄付いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。今年度も引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

4 ベトナム南米山学友会 第1期総会開催

7月28日、ベトナム南米山学友会の第1期総会がハノイで開催されました。当会の駒井英基常務理事が参加したほか、日本からも6人のロータリー会員が出席。また、ベトナム出身の米山学友約20人に加え、タイ米山学友会会長のベチエン ナレスさん(1994-96/藤谷R.C.)、韓国米山学友会会長の朴在泳さん、第2580地区米山学友会会長の楊子明さん(2002-03/東京新橋R.C.)らの学友が参加しました。
総会では、ホーライ フーン会長(1973-75/桐生西R.C.)の挨拶に続き、会計・活動報告が

行われました。同学友会では日本の多くのクラブと協働し、奉仕・交流活動を行っており、児童養護施設への物資寄贈など、さまざまな奉仕活動が報告されました。また、2016年から行っているホーチミン市工科大学の学生への奨学金プロジェクトの支給対象者数は累計23人となり、この総会にも5人の奨学生が参加しました。
総会はずべて日本語で進行され、参加者には日頃からの支援への感謝が述べられ、心温まる総会となりました。

5 「再会 in 関東」実行委員会 寄付&復興ボランティア

昨年8月に茨城県つくば市で開催された米山学友による世界大会「再会 in 関東」実行委員会が、米山梅吉記念館への寄付、そして、徳巻半島地震で被災した学校へのスポーツ用具寄贈を行いました。

6月9日、第2590地区米山奨学会主催の新規米山奨学生の米山梅吉記念館訪問にあわせて、「再会 in 関東」実行委員会メンバーの朴貞子さん(2006-08/岸和田R.C.)、何玉翠さん(1987-89/奈良R.C.)、崔玉芬さん(2007-08/大洗R.C.)の3人で記念館を訪問。「再会 in 関東」実行委員会から記念館へ寄付金を贈呈しました。



そして7月12日、朴さんは第5代よねやま親善大使の陳福さん(2012-14/四日市東R.C.)とともに石川県七尾市を訪問。七尾R.C.の例会に出席した後、甚大な被害を受けた七尾市内の専門学校高等学校を訪れ、スポーツ用具(バレーボールネット、バドミントンラケット等)の寄贈を行いました。13日は同市で復興支援ボランティアとして、がれきの撤去・運搬作業に参加。自らの目で七尾市の現状を見た朴さんは「実際に作業してみると、まだ復興への道のりは非常に遠いと痛感させられました」と、述べました。